

誰もが人として尊重され、幸せに生きる権利「人権」を持っています。  
人権は大人だけでなく、当然子どもにも保障されています。  
しかし子どもは、大人よりも人権が侵害されやすく、近年、親から子どもへの虐待や子ども同士のいじめが大きな社会問題になっています。  
子どもたちの権利、その権利を守るために大人ができることを考えてみましょう。

## 世界中で取り組む「子どもの見守り」 ——子どもの権利条約——

子どもの権利条約は、1989年11月の国連総会において、世界中の子どもの権利を守るために全会一致で採択されました。

18歳未満の児童(子ども)を、権利を持つ主体と位置付けて、大人と同様に一人の人間として人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。

そして、子どもの生存・発達・保護・参加という包括的な権利を実現・確保するために必要な事項を、具体的に規定しています。

「子どもの権利条約」では、  
子どもの権利は  
大きく分けて四つあります

〈発達〉  
自分らしく  
育つことができる権利



〈生存〉  
安心して  
生きることができる権利



〈参加〉  
自分の思いを伝えたり、  
いろいろなことに  
参加したりできる権利



〈保護〉  
つらい思いを  
しないように守られる権利




みんな  
で  
守  
る

”  
子  
ど  
も  
の  
幸  
せ  
“

## いつでも、どこでも 大人が心掛けたい「子どもの権利」

### 家庭で

- 一人の人と認めて意見を聞く
- 子どもの様子に気付くことや救う手立てをとる
- 子どもの命を守り、子どもの年齢や成長に合わせた発達の支援を行う



### 学校、保育園、こども園、幼稚園で

- 子どものサインを複数の目で見守る
- 子どもが自分で考えたり、行動したりできることを大切にする
- 子どもの個性を尊重し、思いやりの心、勇気ある行動を育てる
- 子どもと触れ合う機会を増やし、温かく寄り添い、気持ちを共感する



### まちや地域で

- 誰もが安心して暮らせるように安全なまちや地域をつくる
- 子どもを見守り、時には声掛けをする
- 子どもが自分の思いを伝えたり、地域活動に参加したりしやすい場をつくる
- 困ったときやつらいときに、相談しやすいところをつくる

## じんけんフェスタ2020

### 人権週間 記念映画 「あの日のオルガン」上映



©2018「あの日のオルガン」製作委員会

(出演:戸田恵梨香、  
大原櫻子 ほか)

太平洋戦争末期、  
日本で初めて未就学  
児を集団疎開させ、大  
切な命を守り抜こうと  
した保育士たちの実  
話に基づく作品です。

時 12月6日(日) 午前の部 10:00から(9:30開場)  
午後の部 13:30から(12:30開場)

所 文化会館第1ホール 定 各500人

申 11月27日までに、電話かファクス、  
Eメール(✉jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp)で、  
または直接、人権センター(総合会館7階)へ

戦時下、「子は国の寶」とうたわれていたにも関わらず、戦局が悪化するや政府から切り捨てられた乳幼児や妊産婦。映画では、東京の下町に生きる子どもを空襲から守るために、幼児のみの集団保育を執行した若き保母たちの活躍に焦点が当てられています。しかし、実際の疎開保育が成立した背景には、疎開先の住民の奮闘がありました。当時の農村も過酷な状況にあったにも関わらず、都会育ちの子どもや保母たちを排除せず、受け入れ、共に生きたのです。

戦時下とコロナ禍を一緒に語ることはできませんが、非日常の暮らしの中で、他者を受け入れつつ、共生していくという意味を、この映画を通して四日市の皆さんと共有できれば幸いです。

映画に資料協力した  
東京福祉大学保育児童学部講師  
西脇二葉さん



ストップ  
STOP!  
コロナ差別

コロナ禍における誤解や偏見による誹謗中傷やいじめ、差別的な対応といった人権侵害は決して許されるものではありません。  
向き合う相手はウイルスです。私たち一人ひとりがお互いの立場に立ち、思いやりの心を持って支え合いましょう。

●この記事についてのお問い合わせ・ご意見は

人権センター ☎354-8609 FAX354-8611  
人権・同和政策課 ☎354-8293 FAX354-8611  
人権・同和教育課 ☎354-8253 FAX354-8308